

2023年度第8回特活カフェ「2023年度重点課題プロジェクト報告」  
2024年1月20日（土）

# グローバル・スタンダードとしての 日本型教育モデルの開発 —Tokkatsuの海外展開の分析—

京免徹雄（筑波大学）

平田幸男（至学館大学）

天野幸輔（名古屋学院大学）

添田晴雄（大阪公立大学）

小泉琢磨（深谷市立藤沢小学校）

鈴木純一郎（多摩市立貝取小学校）

平野 修（尚絅大学）

相庭貴行（筑波大学大学院生）

# 1. プロジェクトの概要

(京免)

# 助成金によるフィールド・ワーク

- 筑波大学を代表機関として、受託文部科学省EDU-Portニッポン「令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究」に応募し、採択された
- 研究課題：「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究～日本型教育先進地エジプトにおけるTokkatsuの効果検証～」
- 2023年12月23日（土）～31日（月）にエジプト（カイロ）にて現地調査を実施



ホーム  
Home

研究テーマ  
Research

活動報告・研究成果  
Report and Achievements

メンバー・体制  
Member

イベント  
Event

関連情報  
Resource



EDU-Portニッポン

「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」

EDU-Port Japan

“Study on internationalization and quality assurance of Tokkatsu aimed at fostering non-cognitive skills”



# 研究目的

- 本研究では、エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動（Tokkatsu）の現地化の実態を調査し、個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力に与える影響を明らかにします。

さらに、エジプトの関係者と共同で、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを作成することを通じて、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発します。

- また、エジプトで実施中のODA事業と相乗効果を発揮するとともに、カイロ日本人学校の協力を得て、人材の重層的ネットワーク強化にも貢献します。

日本特別活動学会との連携を通じて、調査結果を国内に還元し、日本の教育の国際化につなげるとともに、将来的にグローバルサウスと呼ばれる国々の教育改善にも貢献できる知見の創出を目指しています。

# エジプトにおけるTokkatsuの現状

パイオニアスクール **12校**



学級会

学級指導

エジプト日本人学校 **51校**



日直

全国の学校 **約2万校**



係・当番

掃除



- 共著論文
- 共同学会発表
- 学術イベントの共催

- 高位の学位プログラム
- 学部課程での必須講義や実習

- エジプト日本学校や他の学校への経験共有

## EDU-Port調査研究事業の枠組み

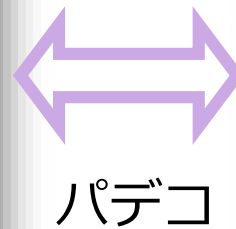
A. Tokkatsuディプロマの共同開発に向けた協議

B. 小学校における非認知能力育成の効果検証

C. Tokkatsuの現地化と研修・認証制度の調査

D. カイロ日本人学校とエジプト日本学校との教職員の交流

- 文科省EDU-Port調査研究事業（筑波大学）
- 重点課題研究（日本特別活動学会）



- エジプト日本教育パートナーシップ
- 基礎教育省（JICA Projectのホスト機関）
- エジプト日本学校
- エジプト日本科学技術大学
- 関心を有する大学
- その他

# プロジェクトリーダー4名+27名のメンバー

■ 京免 徹雄 (筑波大学) Tetsuo KYOMEN (University of Tsukuba)



専門領域: 特別活動、キャリア教育、比較教育学  
Research Field: Extracurricular Activities, Career Education, Comparative Study  
本研究における役割: 全体統括、プロジェクトCリーダー  
Role in the study: Principal investigator, Project C leader

■ 山田 真紀 (楊山女学園大学) Maki YAMADA (Sugiyama Jogakuen University)



専門領域: 特別活動、教育社会学  
Research Field: Study of TOKKATSU, Sociology of Education  
本研究における役割: プロジェクトBリーダー  
Role in the study: Project B leader

■ 杉田 洋 (國學院大学) Hiroshi SUGITA (Kokugakuin University)



専門領域: Tokkatsu, Classroom Management, School Management  
Research Field: Extracurricular Activities, Career Education, Comparative Study  
本研究における役割: 全体統括、プロジェクトAリーダー  
Role in the study: Project A leader

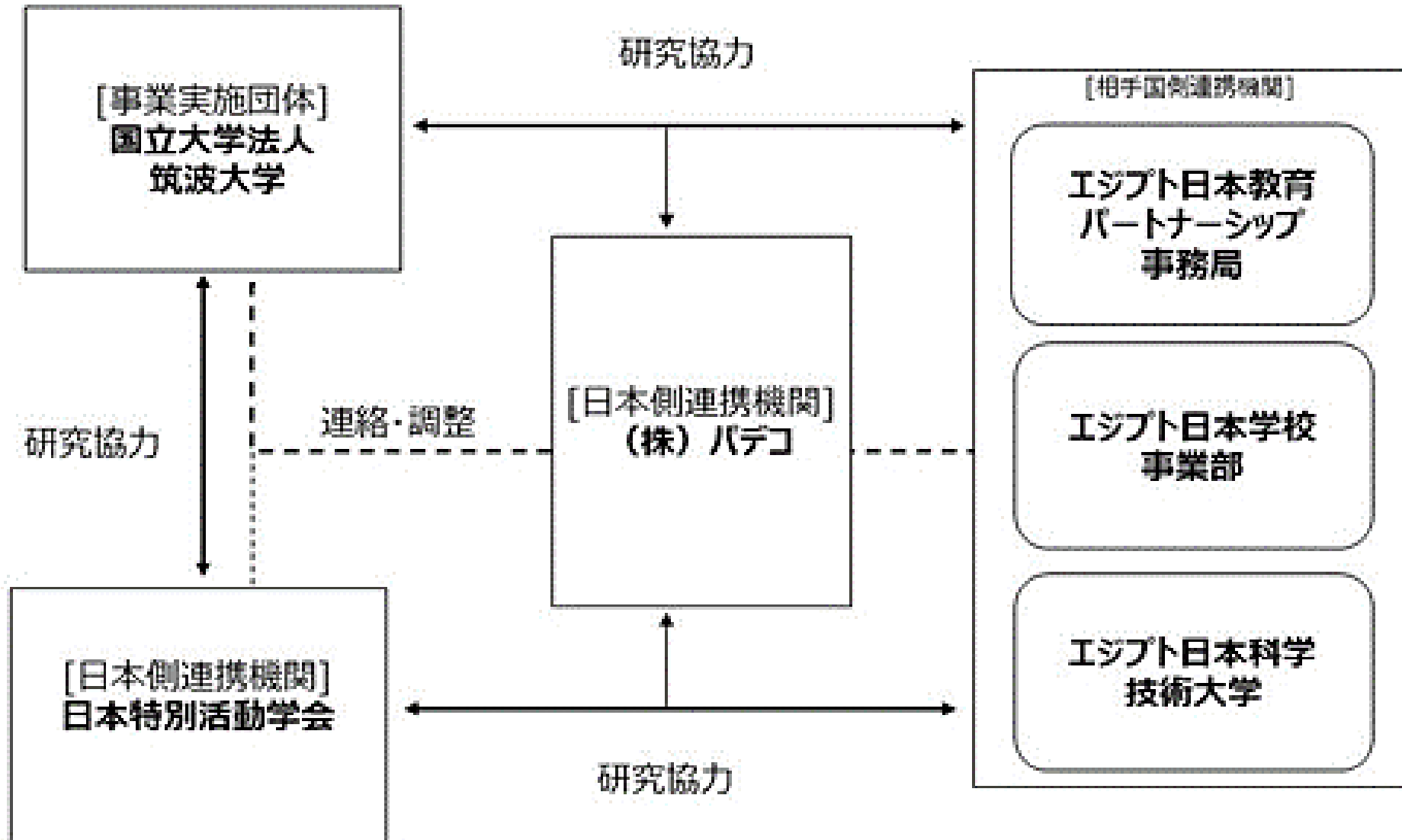
■ 天野 幸輔 (名古屋学院大学) Kohsuke AMANO (Nagoya Gakuin University)



専門領域: 特別活動、道徳教育、いのちの教育  
Research Field: Extracurricular Activities, Moral Education, Death and Life Education  
本研究における役割: プロジェクトDリーダー  
Role in the study: Project D leader



# 実施体制



# 2. プロジェクトB 小学校における 非認知能力育成の効果検証 (平田・小泉)

# プロジェクトBの目的

## 1. 学級会の分析

- 学級会の場面およびその前後の子どもの姿から、非認知能力の発揮・獲得の場面を捉える。
- 音声データを文字起こしして、教育方法学の方法論に基づき授業分析を行う。特に合意形成の場面を可視化することで、非認知能力との関係を考察する。

## 2.モスト・シグニフカント・チェンジ（MSC）による参加型評価

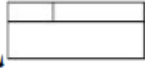
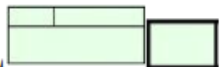
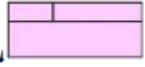
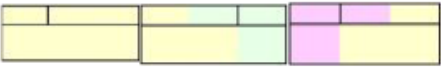
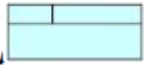
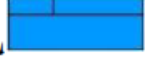
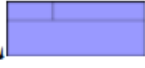
- 児童個人や集団の変化を捉えるため、特定の学級を追跡する。学校教員、保護者等を対象とするワークショップを開催し、児童の変化で最も大きい要素について議論する。

# プロジェクトBの内容

- EJS3校を訪問、4つの学級会を参与観察



## 学級会の分析（小泉作成）

児童生徒 の発言	白色 	意見・質問・司会からの提案など
	緑色 	賛成意見
	赤色 	反対意見
	黄色 	質的改善（新しい考え・価値が生まれた発言） 賛成意見や反対意見の中で生まれることもある。
教師の 発言	水色 	思考を促す助言（教師が答えを出していない）
	青色 	すべきことを明確にする指示（教師が答えを出している）
	紫色 	児童生徒への期待を込めた要求（答えは出さないが求める）

# プロジェクトBの内容

## 学級会の過程の数値化（小泉作成）

(1) つながり率 ☆つながり率 (%) = 矢印の数 ÷ 児童総発言数

児童生徒の発言数におけるつながりのある発言数の割合を示している。

(2) 教師発言率 ☆教師発言率 (%) = 教師総発言数（水色の数 + 青色の数） ÷ （児童総発言数 + 教師総発言数）

総発言数（児童生徒の発言数 + 教師の発言）における教師の発言数の割合を示している。

(3) 教師誘導率 ☆教師誘導率 (%) = 青色の数 ÷ （児童総発言数 + 教師総発言数）

総発言数（児童生徒の発言数 + 教師の発言）における教師の誘導的な発言数の割合を示している。

(4) 質的改善率 ☆質的改善率 (%) = 黄色の数 ÷ 児童総発言数

児童生徒の発言数における黄色が含まれる発言数の割合を示す。

(5) スルー回避率 ☆スルー回避率 (%) = （触れられた意見の数 + 回答等があった反対、質問の数） ÷ （意見の総数 + 反対の総数 + 質問の総数）

意見の数（意見数 + 質問数 + 反対の数）におけるその後触れられた発言数の割合を示している。

# 学級会参観シート の例 (EJS New Cairo) (小泉作成)

2023年 12月 25日(日) 参観者(小泉) No.(2)

導入・終末 話し合うこと(①・2・3)	12:10~12:45
12月 司会	13月 司会
1 ういす	32
2 地球儀	33
3 竹の子	34
4 W紙	35
5 7シ	36
6 おしん	37
7 7人組	38
8 おしん	39
9 おしん	40
10 おしん	41
11 おしん	42
12 おしん	43
13 おしん	44
14 おしん	45
15 おしん	46
16 おしん	47
17 おしん	48
18 おしん	49
19 おしん	50

2023年 12月 25日(日) 参観者(小泉) No.(3)

導入・終末 話し合うこと(①・②・3)	このように作るか	31:20~32:10
51月 司会	52月 司会	53月 司会
54月 司会	55月 司会	56月 司会
57月 司会	58月 司会	59月 司会
60月 司会	61月 司会	62月 司会
63月 司会	64月 司会	65月 司会
66月 司会	67月 司会	68月 司会
69月 司会	70月 司会	71月 司会
72月 司会	73月 司会	74月 司会
75月 司会	76月 司会	77月 司会
78月 司会	79月 司会	80月 司会
81月 司会	82月 司会	83月 司会
84月 司会	85月 司会	86月 司会
87月 司会	88月 司会	89月 司会
90月 司会	91月 司会	92月 司会
93月 司会	94月 司会	95月 司会
96月 司会	97月 司会	98月 司会
99月 司会	100月 司会	101月 司会



- 教師の発言率の低下：「教師が動かして教師が決める学級会」から「児童が動いて児童が決める学級会」へ
- つながり率の向上：「個々の児童が自分の思いを主張する学級会」から「人の話をよく聞いて、その思いを受けて発言する学級会」へ

## 2019年1月と2023年12月の学級会の比較（小泉作成）

段階	導入初期		6年目（今回の渡航）	
学校	EJS Hadayk	EJS Hay Elarab	EJS New Cairo	EJS10 <sup>th</sup> ofRamadan2
つながり率	14%	3%	23%	31%
教師発言率	47%	63%	8%	8%
教師誘導率	22%	21%	8%	8%
質的改善率	17%	17%	14%	27%
スルー回避率	58%	43%	82%	63%

- 導入初期は、エジプトの教師の発言率が最も高い。しかし、教師が答えを出していることは低く、質的改善率はエジプトの方が高い。
- 今回の学級会では、日本の学級会の平均値に近い数値を示している。教師がコントロールできる「教師の発言率の低さ」は、注目される。

### 日本の学級会との比較（小泉作成）

学校	EJS 導入初期 学級会の平均	日本の学級会 低学年の平均	EJS 6 年目 学級会の平均	日本の学級会 高学年の平均
つながり率	9%	18%	27%	26%
教師発言率	55%	32%	8%	18%
教師誘導率	22%	19%	8%	14%
質的改善率	17%	15%	21%	22%
スルー回避率	51%	71%	73%	74%



# プロジェクトBの内容

## ・MSCによる参加型評価参加者

EJS教師10名、保護者5名、行政関係者（TO）5名

## ・方法

- ①ワークシートに「子ども」「教師」「学校」について、どのような変化が、なぜもたらされたのか記入する。（25分）
- ②各グループで最も重要だと思う変化について話し合い、まとめる。（30分）
- ③話し合った結果を全体へ発表する。（20分）
- ④日本側の代表からの講評を行う。（10分）
- ⑤ワークシートに、協議を通して学んだことを記入する。（5分）



# Tokkatsu（日本式教育）の導入による最も重大な変化（平田作成）

グループ	子ども	教師	学校
教師A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもつ。</li> <li>・探究者。</li> <li>・協力的に批判し、違いを受け入れ、諸問題を解決することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な視点と計画をもつ。</li> <li>・子どものパフォーマンスを追跡する。</li> <li>・教育的なプロセスを促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が1つのチーム、共同体として統合された。</li> </ul>
教師B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力的、探究的、リーダー性</li> <li>・喜んでいる。</li> <li>・自由に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身を改善、発達させることができる。</li> <li>・異なる方法や代替案をもって子どもを支援できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや教師にとって第2の家庭になった。</li> <li>・健康的で新しい生活様式になった。</li> <li>・評価、改善を継続的に行うことができる。</li> </ul>
指導主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任感をもつ。</li> <li>・リーダーシップが改善された。</li> <li>・自己肯定感が高くなった。</li> <li>・他者を受け入れることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚の経験も生かしながら、よりよい計画を作るようになった。</li> <li>・その子どもの個性や思いについて、より配慮することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって魅力的になった。</li> <li>・保護者との協力のもとよい計画を立てることができる。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な役割に参加することによるリーダーシップ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方や説明において、多様で新しい方法を用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見に耳を傾け、それを活用する。</li> </ul>

# プロジェクトBの内容

- **子ども**：「自由に表現」「協力的に批判」「探究」「問題を解決」「協力的」「他者や違いを受け入れる」「リーダーシップ」「責任感」「自己肯定感」「自信」「喜んでいる」
- **教師**：「教育的なプロセスを促進する」「子どものパフォーマンスを追跡」「個性や思いについて、より配慮」「異なる方法や代替案をもって子どもを支援」「同僚の経験も生かし」「長期的な視点」「授業の進め方や説明において、多様で新しい方法」「自身を改善、発達」
- **学校**：「健康的で新しい生活様式」「子どもや教師にとって、第2の家庭」「子どもにとって魅力的な場所」「保護者との協力のもとよい計画を立てる」「他者の意見に耳を傾け、活用」「評価、改善を継続的に行う」「学校が1つのチーム、共同体として統合」

# プロジェクトBの今後の展望

- 録画した学級会動画、および事後インタビュー（教師2名・児童6名）の分析
- MSCの動画、および個人ワークシートの分析
- MSCの「二次分析」（参加者へのフィードバック）



# 3. プロジェクトC 特別活動の現地化に関する インタビュー調査

(平野・相庭・添田)

# プロジェクトCの目的

## 1. エジプト日本学校と公立学校（パイオニア校）でのインタビュー調査

- Tokkatsuに対する認識について教師・児童へのインタビューを行い、特別活動の内容と機能のうち、何が受け入れられており何が受け入れられていないか、受容の際にどのようなカスタマイズがなされているか明らかにする。

## 2. Tokkatsuオフィサー研修・認証制度の調査

- 教育・技術教育省、研修協力機関、県教育事務所において研修の参与観察、受講者（TO）へのインタビューを行い、質保証制度としての成果と課題を明らかにする。

# プロジェクトCの内容

- EJS 3校を訪問し、教師8名、児童15名、指導主事（TO）10名に、1人30～60分のインタビューを実施した。

## 児童に対するインタビュー結果の例（相庭作成）

質問内容	児童 A	児童 B
学級会に対する印象と実施したことによる変化	<p><u>Respect</u> されるのがうれしい</p> <p>自身：<u>意見が言える</u>ようになった</p> <p>友人：<u>否定ではなく議論する</u>ようになった、<u>ほめる</u>こと増えた</p> <p>学級：<u>家族のように助け合う</u>ようになった</p>	<p>最初は意見聞かない人もいて少し大変だった</p> <p>自身：<u>自由に意見言える</u>ように</p> <p>学級：<u>言っても大丈夫と</u>感じられるようになり、<u>相談すること</u>も増えた。ほかの時間も相談増えた</p>
掃除に対する印象	<p>最初は消極的だったが、やると<u>みんな喜ぶ</u>のでやる気が出た</p> <p>家でもやり方教えている</p>	<p>がんばっている、家に戻ってもほうきの使い方などを教えている</p>
日直に対する印象	<p>リーダーになって<u>respect</u>されることがうれしい</p>	<p>先生を<u>サポートする</u>のが楽しい</p> <p>家でも家族を手伝うようになった</p>

# プロジェクトCの内容

## (1) 児童インタビュー

- 自由に意見が言えるようになった。
- 他者に認められる、感謝されることで、自信がついた。
- 学校内外で他者と協力するようになった。
- 問題が起こった時に、みんなで話して解決できるようになったことで、友達との見方も変わってきている。
- 先生に対して怖いイメージが強かったが、自分たちがやろうとすることを一緒に考え、アドバイスを与えてくれる、お兄さん、お姉さんのような存在に変わった。
- 糖尿病の児童は、病気のことからいじめられていたが、Tokkatsuを通して友達が、自分のことを理解して認め、守ってくれる存在へと変わった。





## 教師に対するインタビュー結果の例（相庭作成）

質問内容	教員 C	教員 D
Tokkatsu の目的 やキーワード	<p>協力、参加、責任、意見が言える、幸せになる力…etc. 子どもの性格のため 子どもの人間関係も大事</p>	<p>チームワーク、振る舞い、自信…etc.元々元気な子が多いので、うまく意見を言えるようになる、相談できるように</p>
Tokkatsu の合った/合わなかった点	<p>容易…朝の会。一日の目標を立てるなど容易だった 困難…朝自習（静かにするのが大変）、掃除（家で経験ない）</p>	<p>学級会は日本のやり方を真似して容易にできた、ただ 4-6 年は少し難しい 掃除も家庭に感謝される ただ学級会は途中で口をはさみたくなり我慢するのが大変</p>
多数決の問題や同調圧力への対応	<p>異なる意見があれば友人に相談するようにする 意見が割れたら説得する</p>	<p>意見が割れたら相談して交渉する サジェスチョンボックスに意見を入れて取り上げることもある</p>
Tokkatsu の成果	<p>クラスメートのことをよく理解するように（朝の 1 分トーク等で） 責任を全うすること、協力することが増えた 自信を持つ子も増えた</p>	<p>責任を持って行動する、自信をもつ、命令ではなくやさしく話すようになり、相手の話をよく聞くようになった先生やほかの児童を手伝うように何でも反対ではなく相談することが増え、グループで動くことも増えた</p>

# プロジェクトCの内容

## (2) 教師インタビュー

- Tokkatsuの目的・キーワード：  
協力・参加・責任・意見を言う・幸せになる・議論する・自信
  - 児童が、相互理解し協力した。
  - 児童が、責任をもって行動するようになった。
  - 児童が、自信を持つようになった。
- ⇒ 児童自身の認識と一致



## TOに対するインタビュー結果の例①（相庭作成）

質問項目	TO-E	TO-F	TO-G
エジプトの子どもにとってのTOKKATSUの意味	子どもたちは元々能力があったが <u>正しく生か</u> <u>せていなかった。</u> 一人ひとりに合わせて指導できることで、 <u>性格を伸ばす</u>	エジプトの人は自分が自分が、となりやすい Tokkatsuは <u>相手のことを聞く、協力する</u> 他の人の話を聞き、協力できるように <u>な</u> ってきている	エジプト社会の問題として、 <u>他の人の意見を聞く機会がない。</u> 他の人の意見が自分のためになるかもということ Tokkatsuで <u>学</u> んでいる 生活能力の向上に
Tokkatsuを行う際の学校ごとの工夫	学年間の交流、保護者との交流等	最近朝自習の内容や朝の会の話題などにアレンジ加えるように	従来の Tokkatsu と共通する要素をもつ活動を発展させた例も
一般校にTokkatsuが普及しない要因	負担が増えること 外来のものでありイメージもわからないため	研修の問題が一番 研修は行われていて分部分だけで全体の理念が理解されていないことがある。 研修自体も少ない	文化が異なるのでわからない点が多い 変更することに抵抗がある
エジプトの教師にTokkatsuを行う資質はあるか	まだわからないが研修が十分ではない	準備あればできるが、忙しいのが課題 見せるための show になることもある	EJS の教員は持っているが、一般校の教員は研修が少ないため不十分

## TOに対するインタビュー結果の例②（相庭作成）

質問項目	TO-E	TO-F	TO-G
学校間・教師間の違いは課題になっているか	そんなに問題ではない 合意形成の方法の違い等	教師用ガイドがあるので大きく異なることはないが、それぞれ教員がアレンジしている	教師用ガイドでステップが説明されているので大差ないし教師間の差も問題ない
TO としての関わり	先生の気持ちを理解しつつ Tokkatsu を学校に伝える	まず自分の普段の生活から変えるようにしている。話を聞くなど	公立校での研修、EJSでの教師への指導や相談など
TO に必要な能力	柔軟に相手を理解する力、良い点を見つける力、教員のパートナー（伴走者）になること	ロールモデルとして、相手のことをよく聞き理解できるように話す実態を知ること	コミュニケーションして情報を伝える 特活の philosophy を理解し実行すること
TO の難しさ	学級数が増えているため、少ししか指導できないことも	先生は自分ですべてやろうとしてしまう 先生同士の競争もあり、そうすると子どもが損する	毎年 Tokkatsu の教員が変わるため、ゼロから始めることになる 今も変わらない
自身のキャリアにおける TO の意味	自身の話し合う力、相手の話を聞く力に生きてくる	TO を通して自身の考えを伝えていきたい	少数派について考える、相談することが増えるなどの変化あった

# プロジェクトCの内容

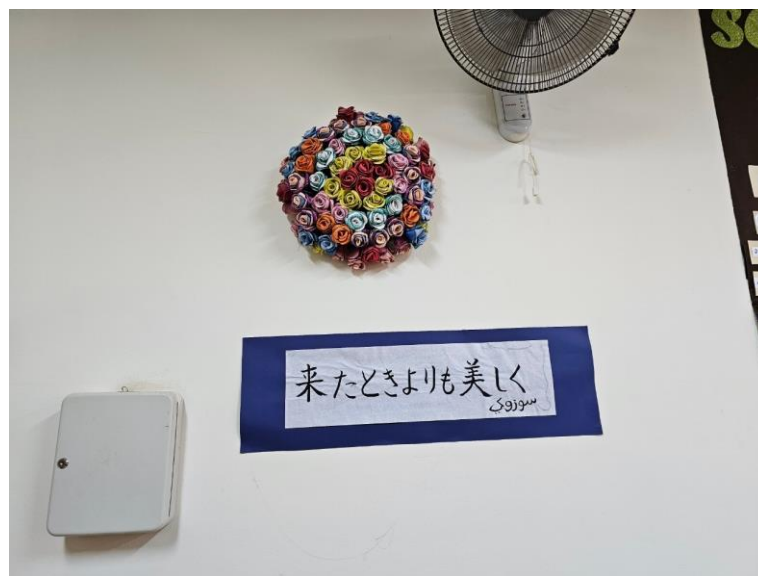
## (3) TOインタビュー

- エジプトでは、子どもが他者の意見を聞いたり協力する機会がなかったため、個々人が能力を生かせていない状況だった
- Tokkatsuは児童1人1人に役割を与え、自分の力を発見して実践する場を提供した。協力という価値は、コーランの教えにも通じている。
- Tokkatsuが一般校に普及しない背景には、①教員の給与の問題、②1教室あたりの児童数の数、③保護者への理解、④校長の理解、がある。



# プロジェクトCの今後の展望

- インタビューのデータを文字起こしして、詳細な分析を行う。
- パイオニア校を含めた公立校で、追加の調査を行う。
- 「主張することを認め合う」エジプトの学級会を逆輸入し、日本で社会実装に向けて試行する。



# 4. プロジェクトD カイロ日本人学校とエジプト日本学校 との交流活動 (鈴木・天野)

# プロジェクトDの目的

- カイロ日本人学校（CJS）とエジプト日本学校（EJS）との間で、小学校教師の交流会を実施する。
- Tokkatsuに対する理解を深めるとともに、合同の学校行事（学芸会や運動会）や保護者交流の可能性について議論する。
- 一連のプロセスから、日本型教育の発展に向けた日本人学校と現地校との協力体制をモデル化する。





# プロジェクトDの内容

## (1) 参加者全員による模擬学級会の実施

- ・ 議題「小学生の集団がみんなで楽しめるレクリエーションを決めよう」
- ・ 決まったこと「じゃんけん列車」(エジプトのじゃんけん)

## (2) 決まったことの実践

## (3) 実践後の振り返り活動

- ・ EJSの教師12名、CJSの教師2名、他の日本の教師等9名が参加



# プロジェクトDの内容

- 日本側の発言では、交流相手の立場を考慮して、自分自身の考えを伝える場面が目立った。それらの意見に応じて、エジプト側からも交流の意義を考えながら発言する姿が見られた。
- 記録は日本語とアラビア語を同時に行い、進行状況を確認しながら話し合うことができた。
- 互いのよいところを取り入れたり、不都合な点を取り下げたりするなど、折り合いをつけて話し合う様子を意図的に演じる場面があった。
- 日本側が手本を示す場面はあったが、エジプト側の話し合い活動の進行の仕方や留意点に対する理解は徹底されていた。



# プロジェクトDの内容

- レクリエーションを2つ決めたが、両方とも日本のものであった。理解されるか心配したが、すぐに実践できた。
- EJS教師とカイロ日本人学校教師を均等に2グループに分け、振り返りを兼ねた事後グループインタビューを行った。
- EJS教師は、自分の体験に基づく内容を熱心に語った。また、板書に利用された学級会グッズなど、細かい部分にも注目していた。
- 「TokkatsuをTokkatsu的に学ぶ場」になり、新たな交流の形を提案できた。



# プロジェクトDの今後の展望

- 模擬授業での発話データを分析することにより、EJS教師の発言のつながり具合、司会が述べた趣旨との一致状況を把握する。
- グループインタビューについて、データの詳細な分析を進める。
- 以上を通して、より効果的な研修の方向性を提案し、日本人スーパーバイザーと共有する。
- CJSの保護者にインタビューし、EJSとの交流をどう評価しているか明らかにする。
- 日常的にCJSとEJSの交流が積み重ねられるように、校務分掌に交流担当を複数任命し、組織的かつ持続可能な連携を進めていく必要がある。
- 学校行事や宗教行事の見通しを立てて、交流活動を計画的に行うために、PMUがEJS全体の年間計画を早めに提示する配慮が求められる。

謝辞：本研究は、令和5年度 文部科学省「日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）」調査研究「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」の助成を受けた。

謝辞：本研究は、日本特別活動学会2023年度重点課題プロジェクト「グローバル・スタンダードとしての日本型教育モデルの開発—Tokkatsuの海外展開の分析—」の助成を受けた。

謝辞：本研究の実施にあたって、（独）国際協力機構およびエジプト教育・技術教育省（MOETE）から、「エジプト国『学びの質向上のための環境整備プロジェクト』」および「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」のデータの提供を受けた。

付記：本研究は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認（課題番号：筑2023-188A号、筑2023-189A号、筑2023-190A号）を得て、実施した。

ご清聴ありがとうございました。

